

住民意識にもとづく港湾整備の方向

徳島大学工学部 正員 定井喜明
大鉄工業 K.K. O正員 榎本光弘

§1. 研究の目的

「土木事業においても周辺の関係住民の意識とニーズに応じた計画と施行が要請されている」という認識は、港湾・海岸の分野において、最近特に強調されてきた。本研究はこの社会的要請に対処するために、大型流通港湾の建設が予定されている小松島港をケース・スタディ対象港湾として、徳島県が行ったアンケート調査をもとにして、周辺関係住民のニーズおよび港湾整備事業に対する評価を分析し、それに基づく港湾整備の基本的な方向を析出し、時代を先取りした港湾整備事業の推進に資さんとするものである。

§2. 調査概要

小松島港沿岸の7地区において、300世帯を無作為抽出し、昭和53年3月、4月に郵送アンケート留置方式により、有効サンプル数272を得た。調査内容は港のイメージ、港とのつながり、整備の要望内容、レクリエーション施設内容、生活環境意識および港湾整備事業に対する評価など16項目であった。

§3. 港湾整備に対する地域住民のクラスター構造

港湾整備への要望および評価により、AID法を

適用して、地域住民のグループ分けを行い、各グループの人数、特性およびこれら社会的評価への影響要因を分析した。このAID法とは数値を与えた外的基準のグループ間分散が最大となる説明要因で対象者の分割を行い、これを繰り返して、グループ分けを行うものである。外的基準を港湾整備への積極性(港湾開発賛成1、現状維持0)として、説明要因に個人の属性、生活環境意識および港湾利用形態を用いた分析結果を図-1のAID樹形図に示す。この図から、農林水産業従事者に港湾整備に対して現状維持を主張する人が多く、開発賛成者も生活環境の改善、とくに道路整備を強く要望していることがわかる。つぎにレクリエーション施設として要望の強い、公園、散歩緑道、釣り場および海洋博物館のうち、散歩緑道の要望の有無を外的基準とした分析結果を図-2に示す。この図から、港湾整備に消極的な人はより自然性の強い施設として散歩緑道を要望していることがわかる。また港湾整備の要望内容として、選抜者の多い水質改善、風紀改善および交通混雑解消のうち、水質改善の要望の有無を外的基準とした分析結果を図-3に示す。この図から、住宅・水田地帯に居住し、工場の火災・爆発に対しては満足であるが水質汚濁に対して不満をもつ人に水質改善要望者が多いといえる。

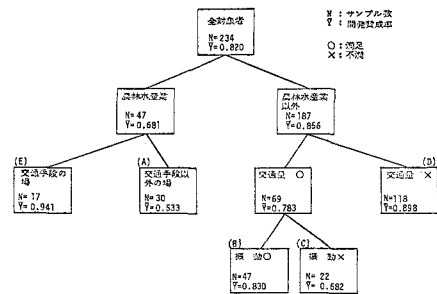


図-1 港湾開発賛成者のAID樹形図

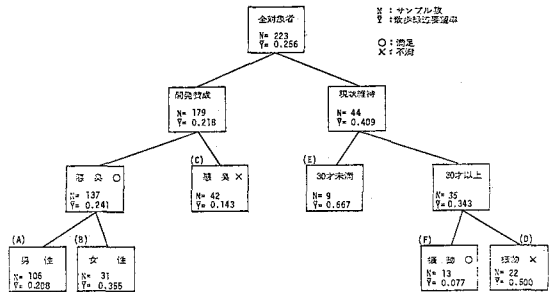


図-2 散歩緑道賛成者のAID樹形図

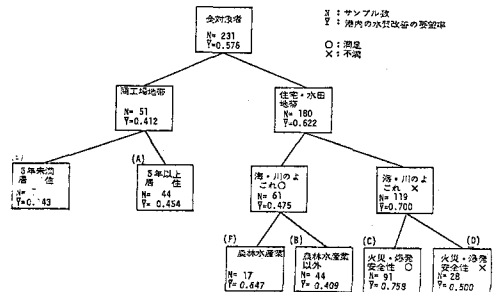


図-3 水質改善賛成者のAID樹形図

§4. 港湾に対する地域住民の意識構造

港湾

に対する地域住民の意識構造の骨格となるものを得るために、数量化理論3類を適用した。まず、港湾に対する地域住民のイメージ構造の分析結果を図-4に示す。この図から、Ⅰ軸は港湾機能軸(生産・流通的-レクリエーション的)、Ⅱ軸は港湾の特定性軸(一般港-小松島港)と意味づけられよう。また単純集計の結果より原点からの距離はイメージの強さを示していることがわかる。これらのことから、小松島港は流通港湾としてのイメージが強く、夜景、公園、夜霧、カモメといった情緒性の大きいものへのイメージが弱いといえる。つぎに、生活環境意識構造分析結果を図-5に示す。この図から、Ⅰ軸は生活環境満足度(満足-不満)、Ⅱ軸は市街化程度(進展-微弱)と意味づけられる。さらに、港湾整備に消極的な人は周辺地域の市街化による自然環境の劣化に不安をいだいているといえる。

§5. 社会的評価への影響要因

海浜埋立時の

留意内容のうち、要望の多い自然海浜保全、水質保全、漁業資源保全の要望要因を数量化理論2類により析出した。その結果、自然海浜および水質保全の主要規定要因は海洋レクリエーションの場としての港湾の見方と水質汚濁の見られる現状への不満であり、漁業資源保全の主要規定要因は水産業従事者の生計への不安であることがわかった。

§6. 社会的評価にもとづく港湾整備の方向

港湾整備事業のもつ魅力を高め、関係住民の協力とコンセンサスを得る港湾整備の方向を以上の分析結果から析出した。周辺地域の市街化による自然環境の劣化に対する地域住民の不安を除去し、親しまれる港づくりをするために、海・川のごれ、緑の量といった生活環境における景観、保健、衛生的な問題の重視、情緒性の付与および改善、住民参加による港湾整備計画の樹立が必要である。また水産業従事者が生計を立てるだけの漁業資源保全は困難であるので、納得のゆく離職補償が必要である。さらに、具体的な港湾整備内容としてはレクリエーション施設としては、港のめえる公園および散歩緑道の

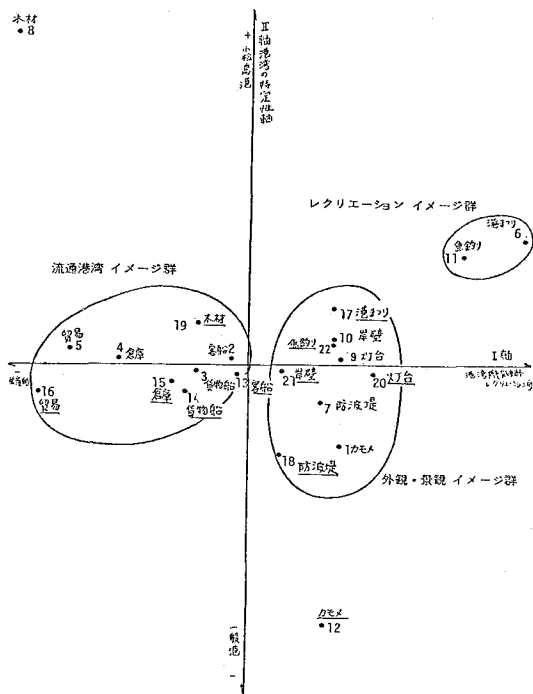


図-4 数量化理論3類分析による港のイメージのカテゴリー分布

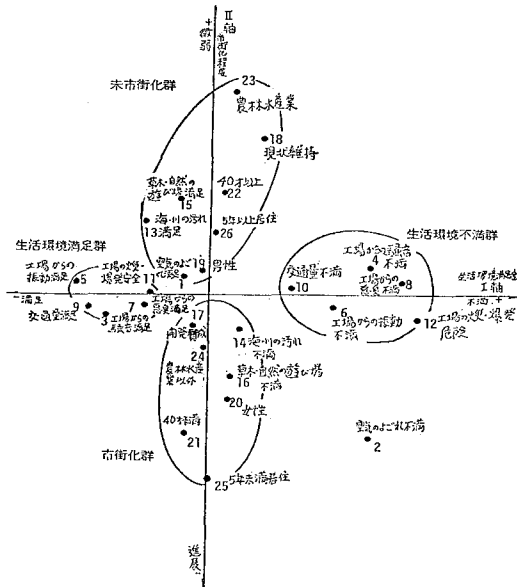


図-5 数量化理論3類分析による生活環境のカテゴリー分布 (Ⅰ軸-Ⅱ軸)

の必要性が最も高く、海浜埋立時の留意内容としては、水質の保全が最も重視されるべきであり、また、釣り場、海水浴場などのレクリエーション的施設を建設する必要がある。

(参考文献) 徳島県土木部港湾開発課：小松島港流通港湾計画に係る調査報告書，1978年。